なんでも相談会＆インボイス制度個別相談会

要予約　TEL 03-3986-2471

3月のなんでも相談会は、26日（火）13時30分～15時30分まで1日4組。法律相談、税務経営相談です。顧問税理士、弁護士が相談に応じます。

インボイス制度個別相談会は19日（火）、26日（火）10時～16時（45分毎）となります。

けんせつ北部

定価三十円（購読料は組合費の中に含まれています。）

発行所
東京土建一般労働組合
城北ブロック会議
東京都豊島区西池袋5-22-15
電話　豊島（3986）2471
北　（5390）6021
板橋（3963）5325
練馬（3825）5522
発行人　寺島　耕平
発行予定日　毎月4回
1日、9日、17日、25日

初めて参加の春闘
そこで私が感じたのは…

「国民春闘勝利総決起集会」が1月31日、中野ゼロホールで開催され、2024年の春闘がスタートしました。

東京土建の他にも多くの労働組合の参加もあり、豊島支部からは11人が参加しました。　壇上で、「物価高騰による生活困窮者が増加しているその中で、大企業は内部留保をため込んでいる。要求を掲げて団結しよう」「最低賃金の全国一律化・時給1500円以上をめざす運動と非正規雇用の格差改善を勝ち取ろう」などの切実な訴えが続きました。

一方、日本は世界的に見てもデモやストライキが少ない国だそうです。一人の声では届かなくても労働組合全体で声を上げ、要望・要求を通す意思が大切だと感じました。

また、東京土建でも独自の賃上げ交渉に取り組んでいます。大手ゼネコンへ団体交渉を行い、建設労働者の雇用改善・担い手確保を求める100万人署名運動など、様々な行動を起こし、仲間たちの要求を実現するため活動しています。

私は、春闘に初めて参加しました。他の労働組合も様々な活動を行っていて、自分たちの活動に自信を持っていると感じました。そして、多くの労働組合、多くの働く仲間たちの「自分たちの生活を守りより良くする」と言う強い意志で戦うとする決意を感じました。

古賀龍昌執行委員（さくら分会）

仲間と一緒に滑るスキーは最高

2月11日、豊島支部後継者対策部主催のスキー・スノボーバスツアーを開催し、45人の組合員とそのご家族が参加しました。

一同は池袋芸術劇場前で集合し、一路群馬県川場スキー場へ。楽しい旅が始まりました。

スキー場は、天候にも恵まれ頂上からの眺めはまさに絶景。仲間と一緒に滑るスキーは最高で、各自が思い思いの楽しいひと時を過ごしました。

3連休中日ということもあり、移動での渋滞や施設での混雑もありましたが、家族や同僚、仲間たちと共に楽しい時間を過ごせました。日帰り温泉施設では限られた時間でしたが、温泉で疲れを癒しました。青年世代の仲間や、初参加のご家族も多く参加し、世代、分会を越えた交流を深めました。

帰りのバスではビンゴゲームが行われ、景品をかけてみんなが次の数字が出る画面に集中し、笑顔が絶えませんでした。

後継者対策部は引き続き様々なイベントを開催し、組合員たちが交流できる場を提供していく予定です。今回のイベントに参加して頂いた皆様、本当にありがとうございました。

瀬谷裕太書記次長（後継者対策部担当）

あらゆる世代が時間を共有
新春旗びらき

1月26日にリビエラ東京にて豊島支部旗開きが開催されました。

今回はコロナによる制限がなくなって初めての旗開きということもあり、来賓含め120人が参加し大いに盛り上がりました。

コロナ発生以降、一同に介する機会がなかったため、久々の交流の場となった今回は、分会を超えての交流も見られました。特に、青年部時代から知っている他分会のベテラン役員や、ブロック役員など顔見知りの人に会えたことは、非常に嬉しく楽しい時間でした。

例年おこなわれていた出し物や抽選会も復活し、笑顔が絶えないまま旗開きは終了しました。

ベテランから若手まであらゆる世代がこの時間を共有できたことで、今後の組合活動にとって必ずプラスに働くと思いました。

田中承宏教宣部員（椎名町分会）

つぶやき

娘、14才になりました

2009年12月、2005グラムで誕生した娘も14才を迎えました。小さい頃に2度入院し、一度は1週間ICUに入り大変な思いをしました。その時の事を忘れるぐらい今では元気に育ちました。私の中では、娘の誕生日は命がある事に感謝する日と決めています。

今年の彼女の誕生日は、所属するバスケット部の試合がありました。エンデバーカップと言う6校の対抗戦で、コロナ後久々の開催でした。彼女はチームには欠かさない存在で終始、試合に出て頑張っていました。

試合結果は準優勝とあと一歩でしたが、選出達は笑顔で終わることが出来ました。

その日、彼女は保護者（私）とコーチからクリスマスプレゼントを貰い、コーチとチームメイトから誕生日プレゼント貰いました。家族で過ごす誕生日も素敵ですが、チームメイトと過ごした誕生日も忘れられない記念日になりました。

来年は受験生ですが、どんな誕生日を迎えるのか楽しみです。そして、命がある事への感謝を忘れないよう、娘にも伝え続けたいです。14才、おめでとう!!

伏見智美通信員（上池袋本町分会）

東京土建の未来を拓く
“組織の増勢は組合の生命線”

元豊島支部執行委員長である作田信義氏に建設業と東京土建の現状、今後の活動について寄稿いただきましたので紹介します。

作田信義 豊島区労協常任幹事
（元豊島支部執行委員長）　池袋分会

情勢を切り開くための組合運動を①「仲間の現状」②「地域活動」③「打って出る運動」の3つ視点から論じていきます。

①建設産業で働く仲間の現状

総務省の労働調査で建設業就業者数が2019年に500万人を割り、建設技能労働者が2023年度に244万人に減っています。建設業に働く外国人労働者も20年より鈍化しています。深刻なのは就業後3年以内の離職率が42.7%と全産業の高卒者の離職率36.9%より5.8%高い結果でした。

2023年度の賃金では、平均年収456.3万円と全産業の平均年収496.6万円に対し10%も低く、労働時間も年間1,962時間と全産業の平均より17%も多くなっています。

東京土建の組織の推維をみると90年代から長引く不況ときびしい情勢の中でV字型回復をし、2008年度130,839人(豊島支部2,578人)と史上最高峰を築きました。しかし、同年のリーマンショックを境に新たな困難に遭遇します。

2009年より2013年まで5年連続で減少しましたが2014年に再び増勢を勝ちとり、2015、2016年と1%実増を達成しました。2020年のコロナ禍と2022年のロシアのウクライナへの侵攻など建設資材の高騰、供給不足などが加わり、2020年に立ち上げた建設アクションの「誰ひとり取り残さない」取り組みで仲間の減少をくい止めましたが、2023年1月、10万9446人(豊島支部2056人)と支部・分会が年間目標を達成しながら、組織減少を余儀なくされました。大本には、大企業・大資本の利益優先、ローコスト政策があり、コロナ危機も加わり中小企業の倒産、不安定雇用の拡大、格差が広がりました。

組合は、大手企業交渉中心に、仲間の「賃金単価、社会保障を含めた労働条件の改善」に向けて企業とのパートナーシップ締結、さらに労働協約の締結への取組みと、建設産業の民主的転換をめざして活動を続けています。

②地域こそ組合再構築の宝庫

地域活動は粘り強く行うべきだと思います。東京土建は地域に居住する仲間たちの個人加盟の組合です。私たちのたたかう武器は「団結」であり強大な組織です。現在、全都の建設労働者約44万人の25%を組織していますが、75%が未組織です。多くは中小事業所の従事者、個人事業主です。地域にはフリーターやシフト労働者、パート等の非正規労働者も多数います。組合は拡大月間を中心に未加入者向けのDM投函、事業所訪問等を行っていますが、全ての未加入者に当たる心構えと手立てが重要です。そして未加入者の就業状況や生活実態をつかむことです。地域に入り込む活動です。「支部、分会の役員活動家がいない」「書記を含めて動く体制が取れない」等が話題になります。役員後継者の選出や活動家の育成は、「組織拡大・強化」と表裏一体の関係であると捉えて推し進める課題です。どちらか一方の議論だけでは前進はありません。困難を理由に停滞しないことが大切です。

地域活動は、「どれだけ深く議論をして、活動方針を具体化し、意思統一するか」が出発点です。役員の決意と「活動方針」に組合の仲間が団結することです。地域の掘り起こしは、情勢とのたたかいです。東京土建は「闘って学び、学んでは闘って」情勢を切り開き前進してきました。目的意識をもって活動する所に新たな成果が生まれ、成果は次の前進のステップになります。足を踏み出す所に前進はあります。

③打って出る運動から組合の増勢を

政府与党の支持率低下が証明する、「裏金問題にみられる政治腐敗」や「昨年度比1.3倍の大型軍拡と社会保険改悪」「30年間賃金の上がらない日本」の現状に、国民の怒りは沸騰しています。そうした声を要求に変え、要求実現のため、野党共闘・国民共同の運動を組織化する取り組みは、労働組合の出番です。

東京土建は、国民春闘共闘や東京地評に結集して、利益至上主義の政治から労働者、国民本位の政治に転換する取り組みとそのための市民的共闘と国民的共同を呼び掛けています。

2023年春闘では、ストライキを構えての行動が提起されました。半世紀にわたって労使関係が封じ込められていましたが、労働権を行使して各地の職場でストが決行され、西武労働組合のストライキはマスコミにも取り上げられ、世論を動かしました。

全権総連第78回（2023年度）住宅大手企業交渉において「大手企業交渉は、労働者の命と暮らしを守るに留まらず、日本の社会そのものを守る闘いである」ことを確認して交渉に臨みました。

具体的に、中央では国民春闘共闘や全国総がかり行動等、共闘できる組織が軸となり、マスコミや保守層を包んで国民世論を動かし、国民一大運動を推進します。

一方、地域では東京土建や各単産、自治体労働者、業者、個人等広範な市民による「悪政を許さない」「政権交代」を含む怒りで自治体を包囲する市民（区民）運動を推し進めます。

自然発生で国民的大運動は起こりません。全国で国民一大運動が成功すれば、政治情勢を大きく変え、民主的共闘や国民的共同も前進します。そうした高揚の中で、未組織の労働者や建設業で働く仲間を励まし、組合に信頼を寄せ、組織建設の展望も生まれると思います。

要町３丁目火災

2023年12月8日夜、千川駅近くの木造建屋に於いて火災が発生しました。池袋消防団第5分団所属である私の携帯にも出火報が届きました。焦り気味に活動服に着替え現場に向いました。到着したころには既に、消防士による消火活動が行われていました。他の分団の方も来られ総勢50名を超える人が集まりました。

「住人と連絡が取れない」と情報が入り、同時に捜索活動も行われました。

消防士による何本もの放水は、後ろから見ていると「もう鎮火しているのではないか？」と思えるような状態でも、これでもか！と思うほど放水していました。周りに水溜りが出来るほどです。訓練の一環で消防団員も実際に消防士の指導の下、放水を行いました。私は操法大会で１番員を経験しましたが、消防士の筒先は仕様が異なっており驚きました。

消火の際、奥の隙間に小さな火が見えましたのでそこに放水しました。「これだけ水を掛けているのにまだ消えてないんだ！」と息を呑みました。

その他に団員の方は、照明の設置、補助、ホース補助、残骸撤去、交通誘導等、消防士の補助に回りました。翌日の朝方まで、消火、捜索活動が行われましたが、60代の男性が遺体で発見されました。

あれから2カ月以上が経ちましたが、正面にブルーシートが掛けられていて、現場はまだ片付けられていません。道路を挟んで向かい側の空地にも、残骸の山が残ったままです。以前には無かった自転車が捨てられていました。

後で判明したのですが、住人は面識はありませんが、私の知人の知人でした。

故人のご冥福を心よりお祈りします。

原田陽弘通信員（かなめ分会）

女性の会　後継者ランチ交流会

2024年2月23日、池袋駅北口の平和通りにある「iitoki」でランチ交流会を開きました。6分会と事業所、後継者合同のランチ会は始めてです。仕事によるキャンセルもありましたが、大人9名、子供9名合計18名。5才～15才のお子様の参加でした。

皆さん始めて会う方もいて不安もありましたが、たくさんお話しが出来ました。今までの女性の会や今後について意見交流が出来ました。幼児以外は途中から子供だけの席でもこちらの話が聞こえないぐらい賑わっていました。貸し切りで助かりました。

これからの女性の会はどうなるかまだ未定です。後継者らしく、出来る事を楽しく、イベントの中で仲間が増えることを願っています。その為にも情報発信はラインやSNSなどでと意見がありました。まずは公式ラインを発信したいと思います。その際にはたくさんの会員さんの登録をお願いします。

子供メインでイベントのアンケートをとりました。結果は3位ハワイアンズ、バーベキューなど。2位はスイーツ食べ放題。1位はいちご狩りでした。その他、松ぼっくりでツリー、キャンドル作りとクリスマス会の案も頂き今から楽しみです。皆さまの要望を叶えられるように努めたいと思います。

2時間半はあっと言う間に過ぎ、次はいつ?と言う言葉もあり嬉しくなりました。またすぐ、お会い出来る事を楽しみにしています。雨の中、ご出席頂きありがとうございました。これからも宜しくお願い致します。

伏見智美通信員（上池袋本町分会）